

「技術を磨けば未来が光る」 石巻 高技専NEWS

〔発行元〕

宮城県立石巻高等技術専門校

〒986-0853

石巻市門脇字青葉西2-7-1

☎0225(22) 1719

令和3年8月10日発行

東京オリンピックの聖火は、6月19日から21日までの3日間、総勢280人によるリレーで県内を運ばれました。

このうち、貞山運河に沿って走る「仙台亘理自転車道」の区間は、**モスクワオリンピック自転車競技日本代表の渡辺幹男さん**が、自転車により運びました。

自転車の後輪には、聖火トーチを固定する台が付けられており、その固定台は、**当校金属加工科の学生と指導者が県から依頼を受けて製作したものです。**



【写真上】聖火を運ぶ渡辺さん（Tokyo2020提供）。
【写真右】後日、当校を御訪問いただいた渡辺さん。右側の額には、モスクワ五輪代表の選定書が。
【写真下】聖火トーチは、当校の学生にもご披露いただきました。

当校は、新規高校卒業業者等が、建設業・製造業部門の若手技能者として活躍できるように、実践的な技能、知識を習得するために設立された施設です。

その歴史は、「石巻造船技術補習所」として開設された昭和18年（1943年）に遡り、これまで4400名を超える修了生を社会に送り出してきました。

当校の訓練科（普通課程）には、「自動車整備科」（訓練期間2年）、「金属加工科」（同1年）、「木工科」（同1年）の3科があります。

金属加工科では、旋盤などの工作



機械を使った産業用機械部品の製作、板金用機械を使った鋼材の切断、曲げ、さらには、各種の溶接、塗装、仕上げができる技能を習得します。

普通なら傷も付かないような固い金属が、加工機械を使うことにより、自在に削ったり、曲げたりすることができるようになります。

“なるべく軽く、丈夫につくりました”

製作を指導した金属加工科 小川主任指導員の話
「トーチは見た目よりも重量があり、しっかりと固定しなければなりません。一方で、走者の負担にならないよう、なるべく軽量なものにする必要があります。そこで、軽量鉄パイプを曲げて溶接し、自転車本体にネジにより取り付けられるようにしました。」



また、5,000度を超える炎で金属を溶かし、金属同士を接着することもできます。

手順を守り、適切な工具を使用すれば、どんなに固い金属でも、思うどおりの形に加工することができます。

当校の訓練に興味のある方は、毎年7月と8月にオープン・キャンパスを開催していますので、ぜひいらしてください。

また、随時学校見学を受け付けていますので、お気軽に御連絡ください。

当校公式Twitterを開設しました！
下記QRコードからぜひ閲覧してみてください。

